福祉医療

第132号
令和８年10月31日

●発行　神奈川県医療福祉施設協同組合 横浜市神奈川区反町３丁目17－２ TEL.045-311-8739

一施設の限界を、全体の購買力へ

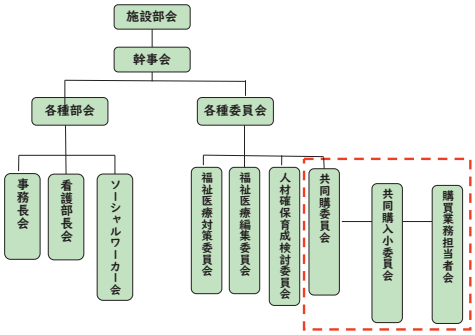
～医療協の「共同購入事業」がもたらすコスト削減とネットワークの価値～

■　設立当初からの経営支援と「共同購入小委員会」の歩み

医療協では、設立当初から会員施設の経営支援策として共同購入に取り組んできました。当初は事務長で構成する「共同購入委員会」が中心となり、推薦企業の紹介や必要物品の共同交渉を通じて、経費削減の仕組みを整えてきました。

その後、厳しさを増す病院経営環境の中で「一施設だけの購買活動には限界がある」との共通認識のもと、2013（平成25）年に各病院の購買担当者で構成する「共同購入小委員会」を発足。会員施設の購買力を結集し、共同交渉・共同購入によるさらなるコスト削減を追求しています。

１）共同購入小委員会について



■　単なる「価格交渉」を超えた、人材育成と学び合いの場

これまで、吸引カテーテルなどの診療材料、コピー用紙、ハンドソープ、ペーパータオル、転倒対策マットレス「ころやわマット」など、多様な物品で着実にコスト削減の成果を上げてきました。2025年（令和７）年度には、３品目の価格交渉により約900万円の削減効果を実現しました。

しかし、私たちの共同購入は単なる「価格を下げる活動」にとどまりません。購買担当者同士が製品情報、市場動向、交渉ノウハウなどを持ち寄り、互いに学び合うことで、業務知識の向上と「人材育成」にもつなげています。

■　信頼でつながる「顔の見える関係」と新たな挑戦

さらに「購買担当者会」では勉強会や情報交換を継続し、2025年からはマンダラチャートを活用した課題整理や業務改善にも取り組んでいます。施設の枠を越えて相談し、協力し合える「顔の見えるネットワーク」へと発展していることも、10年以上にわたる活動の大きな成果です。

物価高騰や人材確保など、病院経営を取り巻く環境は今後も厳しい状況が予想されます。一施設ではなく、「医療協全体の購買力」を活かすことが、経営改善の大きな原動力となります。ぜひ共同購入事業を積極的にご活用ください。

※共同購入推薦企業は医療協ホームページ、共同購入品は会員専用サイトでご覧いただけます。



会議の様子

医療協

神奈川県医療福祉施設協同組合
　無料低額診療事業を中核として医療福祉施設を運営する法人が組合員となり、組合員に対する資金の貸し付け、債務の保証、情報の普及、教育、及び法人が設置する福祉医療施設相互の連絡、調査、研究等の各種活動を実施している団体です。

事務長・看護部長　合同会議 報告
病院経営を取り巻く環境と診療報酬改定の影響

毎年恒例の事務長・看護部長　合同会議を令和８年９月９日に崎陽軒本店において開催し、32名の参加がありました。

聖ヨゼフ病院　野沢事務部長、曽我病院　加藤事務部長から、各施設の令和７年度収支決算書を集計した資料をもとに、会員施設全体の経営状況について報告がありました。会員施設は、開設主体や病床規模、病床種別などが多岐にわたり、適用される会計基準や施設基準もそれぞれ異なります。そのため、単純な比較は難しいものの、各施設の経営状況を把握し、今後の病院経営を考えるうえでの参考としてほしいとの説明がありました。

続いて、済生会横浜市東部病院　高杉事務部長から、病院を取り巻く状況として「救急の増加と受け入れ態勢の課題」について報告がありました。主な取り組みとして、地域をつなぐ「出口」の整備としての早期転院、地域からの要請に応える「入口」の整備としての「断らないダイヤル」を紹介。取り組みによる成果と今後の課題について発表し、活発な意見交換が行われました。

また、令和８年度診療報酬改定の影響について、急性期、回復期、精神科、ケアミックスの各病院から報告がありました。急性期では、改定による増収効果はおおむね事前の予測に沿っているものの、材料費や医薬品費などの費用増が大きく、今後の経営への懸念が示されました。回復期では、入院料の引き上げがある一方、実績指数や休日リハビリテーションなどの要件が強化され、増収を実際の収益につなげるには病院の運営力が重要との分析がありました。精神科では、入院料や各種加算、ベースアップ評価料などの改定による一定の増収効果が見込まれる一方、非精神保健指定医への減算が新設されており影響は大きいと指摘がありました。ケアミックス病院では、診療報酬の増点ではあるが、電気料金をはじめとする物価・光熱費の上昇が経営を圧迫している状況が報告されました。



各施設の報告を通じ、診療報酬改定による収益面での効果だけでなく、人件費や材料費、医薬品費、光熱費などの費用増への対応も重要となっていることが共有されました。病院を取り巻く環境が厳しさを増すなか、それぞれの病院の機能や地域での役割を踏まえた経営判断の重要性を改めて確認する機会となりました。

あぷろーち

秋に入り暑さも和らいだからか、夏の日々を思い出している。今年の夏も暑かった。「酷暑」という新しい言葉も誕生した。35度以上の夏の暑さを猛暑日というが、40度以上の日は酷暑日というらしい。外に出れば太陽の日差しが痛いほどで、室内は冷房が効いていた。テレビでは気象予報士が連日熱中症予防を呼びかけた。夏を乗り切るのに随分体力を使ったな、と感じた。夏前に退院したＡさんはこだわりが強い。「クーラーは嫌いだ」と言っていた。一人暮らしのＢさんは夏バテで麺類ばかり食べている、と。体調は大丈夫だろうか。地域で生活する患者さんに思いを馳せる日々だった。

秋になり、暑さとともにやっと私の心配事も少し落ち着きそうだ。

福祉医療編集委員　一瀬真澄
（紫雲会横浜病院　ＰＳＷ）

ソーシャルワーカー会 活動報告
新任ワーカー研修会～１年間の学びを通じて実践力を育む～

ソーシャルワーカー会では、研修委員を中心に、長年にわたり新任ワーカーを対象とした研修会を開催しています。本年度からは、より体系的かつ実践的な学びにつなげるため、「新任ワーカー研修会シラバス」を作成し、年間を通じて計画的に実施しています。

本研修は、新たに病院・診療所に入職したソーシャルワーカーが、相談員として必要な知識と実践力を身につけ、自信を持って患者・家族への支援に取り組めることを目的としています。生活保護、介護保険、労災、年金などの社会保障制度について理解を深めるほか、無料低額診療事業を行う福祉医療施設のソーシャルワーカーとしての役割についても考えます。講義だけではなく、グループワークや事例検討を取り入れ、現場での実践を意識した学びを大切にしています。


相模原赤十字病院での研修風景



新任ワーカー研修会シラバス

さらに、会員施設の経験豊富なソーシャルワーカーや他職種の専門家等を講師として、制度の知識のほか、実際の事例や経験を交えながら、患者・家族に寄り添う姿勢についても学びます。また、同期の仲間との交流も研修を通じて得られる大きな財産です。

１年間の学びを通じて、新任ワーカーがそれぞれの現場で成長し、地域の医療・福祉を支えるソーシャルワーカーとして活躍することを期待しています。

（ソーシャルワーカー会研修委員会）

施設部会長、事務長会長ご挨拶

施設部会　会長　山本功二
（学識経験者）



施設部会会長を拝命いたしました山本と申します。医療と福祉の連携をさらに強固にし、福祉医療を取り巻く諸課題の解決と、地域社会の発展に努めて参ります。皆様の温かいご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

事務長会　会長　野沢剛
（聖ヨゼフ病院　事務部長）



このたび、会長に選任いただきました野沢剛でございます。

事務長会を通じて診療報酬の情報や共同購入業者の紹介、立入検査や適時調査の対応等、幅広く会員施設の皆様と情報共有できたらと考えております。

よろしく願いいたします。



診療余話

地域全体をひとつの病院に

横浜市立みなと赤十字病院　院長　大川　淳



本院は、横浜市立港湾病院の建て替え計画を機に横浜赤十字病院と統合し、2005年に新病院として開院しました。日本赤十字社が指定管理者であり、地域医療や救命救急への貢献とともに、災害救護を本務としています。令和6年能登半島地震や令和8年熊本地震でも救護班を複数派遣してきました。

開院より20年が経過し、昨年より設備老朽化対策や組織体制の再構築を進めてまいりました。併せて広報推進室を中心にブランディング活動を展開。「みなとReborn Project」として「もしもを守る。いつもにつなぐ。」というブランドメッセージを掲げ、職員の意識改革を図っています。

その中核となる救急外来の拡張改善工事が本年3月に竣工いたしました。救急搬送された高齢患者を本院でトリアージしたのち協定病院へ転送する「救急患者連携搬送」（下り搬送）や、連携医療機関の要請に基づき当院の救急車両でお迎えに伺う「みなと赤十字患者搬送サービス」（上り搬送）に積極的に対応しています。また、課題であった院外医療機関からの直接電話紹介も、総合診療科の新設や連絡体制の改善により、不応需率は5％未満となりました。

また、クラウド型電子カルテの導入とサマリおよび診療情報提供書作成でのAI活用、院内自動搬送ロボット活用といった医療DXにも着手しています。患者さん向けには診療費の後払いサービスや、Webによる初診予約・変更システムを導入し、利便性向上に努めています。

そうしたなか、本年「サルビアねっと」に加盟します。サルビアねっとは、済生会東部病院を中心に2019年から開始されたクラウド型情報連携ツールですが、横浜市の支援により今年度中に市全域へ拡大されます。さらに、県南部に展開する「さくらネット」との接続も予定されており、全国有数の地域医療ネットワークへの発展が期待されています。住民の同意のもと、健康情報を医療機関・薬局・介護施設間でリアルタイム共有することが可能であり、急性期医療だけでなく、転院調整や重複処方防止など慢性期医療の課題解決にも直結します。2040年を見据えた新たな地域医療構想では、地域全体がひとつの病院として機能することが求められています。本院は横浜中心部における医療体制の中核として、その役割をさらに充実させていく所存です。

医療機器販売会社として　1977年創業。
望星サイエンス株式会社
BOHSEI SCIENCE CO.,LTD
神奈川営業所：横浜市都筑区茅ケ崎東４－７－１９
TEL 045-948-0055　FAX 045-948-0618
オフィシャルホームページ　http://www.bousei.co.jp/
医療への貢献と、
より良いアメニティ空間の
創成に努めてまいります。

この人

インタビュー

『和顔愛語』を胸に ―

至誠の心で患者とスタッフに向き合う



育生会横浜病院　看護部長　**吉澤　壽子**さん

明るく穏やかな笑顔で迎えていただいた。その優しい表情からは、温かいお人柄が滲み出ている。

高校時代から憧れていた看護の道へ進むため、日赤看護専門学校へ進学。卒業後は看護師として経験を積み、４年目には早くも幹部候補として学ぶ機会を得た。その後、結婚を機に横浜へ移り、横浜市立大学（現・横浜市大センター病院）に配属される。子育てと多忙な業務を両立しながらも病院再整備と開設準備に携わったこともあり、30代半ばからは管理職としてのキャリアを順調に重ねていった。

そして定年後、縁あって育生会横浜病院の看護部長に着任する。それまでの小児看護などから老人看護へのシフトは大きな転機となったが、「高齢者の残存機能を活かし、人生の再構築を支えていく過程に私たちの看護がある」と前向きに捉えた。規模が小さな病院だからこそ、チームで患者に向き合う中で「看護に血が通う感覚」を実感。併設施設との強い連携のもと重度要介護者の在宅復帰を推進し、患者と家族が穏やかな最期を迎えられるよう寄り添い続けている。

また、医療現場において「人の死になれてしまわないように」とデスカンファレンスを導入。日赤時代に学んだ「ナラティブ（物語）」の視点を大切に、スタッフが思いを共有し合える環境を整えた。さらに、自身も42歳で夫を亡くし２人の娘を育て上げた経験を持つことから、子育て世代の看護師へのサポートにも非常に手厚い。同院は子育てを支援する事業所として横浜市から過去７回の表彰を受け、離職率の低下や中途採用の定着にも大きく貢献している。

こうした温かい組織づくりの根底には、強い信念がある。看護部長としてのモットーは「至誠にして動かざる者は未だこれ有らざるなり」。誠意をもってブレずに働きかける姿勢を貫いている。そして、スタッフに目指してほしい看護師像としては「和顔愛語　先意承問」「自分がしてほしいことをまず人に対して行うこと」－やわらかい笑顔と思いやりの心で対応できること－を掲げる。自身も若手時代に人間関係で悩み、考えの偏りに気づかされた経験があるからこそ、「対話を通して理解を深める大切さ」を伝え続けているのだ。

多忙な日々を送る一方で、プライベートも充実している。敬虔なクリスチャンとして週１回通う教会での交流は大きな癒やしだ。そして最大の楽しみは「推し活」だという。その“推し”とは、２歳から５歳まで４人いるお孫さんたちのこと。オーストラリアに暮らすメンバーも含め、一緒に出かけたり会いに行ったりする旅の時間が、日々の活力の源になっている。

まだまだ働き、学んで、楽しむ旅は続きます。お話は看護への深い愛と情熱が溢れたものでした。

（松井　由美子）

MONZ
株式会社 モ ン ズ
〒240-0035 横浜市保土ケ谷区今井町 519-19
TEL：045-355-2550　FAX：045-353-2011
ホームページ　https://www.monz.jp/

■当社では主に介護用品・医療機器・OA 器機・オフィス家具・事務用品・ギフト商品等を取り扱っております。これからも神奈川県内の病院、介護施設をはじめ、さまざまなお客様のニーズにお応えしてゆきたいと考えております。

介護用品

医療機器

オフィス家具


相談室のドラマ

「お母さんと一緒に暮らしたい」を支える～多職種・行政とつないだ退院支援～

98歳女性Aさんの退院支援事例である。本人は元々当院近くの地域で単身生活、その後転居し長女家族と暮らしていた。心不全でX病院へ入院。それを機に長女からの年金搾取等の経済的虐待やネグレクトを受けていたことが分かった。そのためX病院で行政含め話し合いが行われた結果「退院後は住み慣れた地域に戻り、同地域に住む次女家族との同居を目指すこと」になった。当院へは、X病院からリハビリテーションおよび在宅調整目的で相談があり転院となった。

新たな在宅支援においてキーパーソンは次女、金銭管理・医療費の支払いも次女が行うとの事前情報であった。しかし転院後の家族面談にて、通帳は長女から未返還であることが判明。また、次女家族は生活保護受給中であり経済的援助は難しいこと、次女自身にも障害があり生活課題を抱えていることも分かった。そのため、転居先の行政からは、次女との同居を不安視する声があがった。山積する課題はあるものの、次女は「お母さんと一緒に暮らしたい」という思いを持ち続け、当院の介護教室に参加するなどAさん受け入れの準備をはじめた。

本人や家族の思いに寄り添うため、多職種や行政と課題解決を目指し協議を重ねた。医療費は無料低額診療事業を利用、次女家族と同居する経済基盤として本人も含めて生活保護が受給できるよう調整した。

Aさんは退院後、当院の訪問診療や介護サービスを利用しながら、家族と暮らし、家族に見守られながら最期を迎えた。住み慣れた地域に戻り、自分を大切に思う家族と穏やかな時間を過ごせたことは、本人にとってかけがえのない時間になったのではないかと思う。支援上の課題が多い状況においても、あきらめずに関りを持ち続けた。家族の思いに寄り添いながら、多職種・行政と連携し、その人らしい暮らしを支えることができた印象深い支援事例であった。

（済生会横浜若草病院
MSW　池田理恵子）

新規登録企業のご紹介

DataHax株式会社

取扱商品：AIカメラによる車番認識を活用した、カメラ式駐車場管理システム「DENNOU PARK」
1. ゲート・駐車券・ロック板不要※ゲート連携可
2. キャッシュレス対応※自社製の精算機有り（現金支払い対応可）
3. 運用コストの大幅削減
4. 永年保守で安心運用

株式会社ブレイズ

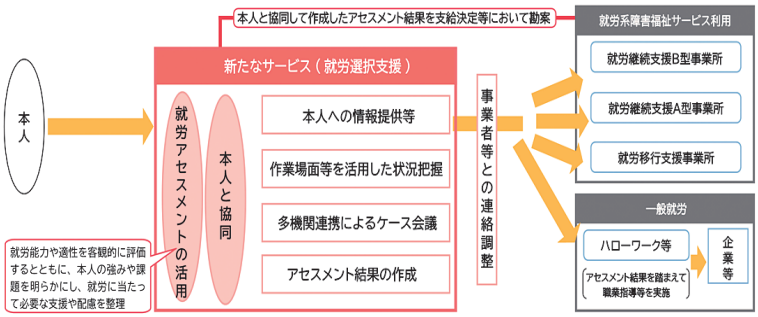
取扱商品：電動モビリティ
次世代モビリティのパイオニア。四半世紀の社歴を持つ信頼の国内EVメーカー。
EVデリバリー（3輪電動バイク）を活用した訪問サービス向けソリューション。
1. 圧倒的な低コスト…軽自動車に比べ燃料コストが約1/7程度
2. 高い安定性・安全性…3輪構造で転倒しにくい
3. 小回り×高い訪問性…狭い路地の走行に最適

ご存じですか？「就労選択支援」が新設されました

（令和７年10月１日より開始）

障害者総合支援法の就労支援に新設された障害福祉サービスです。障害者本人が就労先・働き方についてより良い選択ができるよう、就労アセスメントの手法を活用して、本人の希望、就労能力や適性等に合った選択を支援する事業です。

【就労選択支援のイメージ】



参考：厚生労働省ホームページ

株式会社パースジャパン
横浜営業所
〒222-0033
横浜市港北区新横浜1-3-1 新横浜アーバンスクエア203
TEL　045-594-6030　FAX　045-473-7788
https://persjapan.co.jp

随想

中年から始める学び

国際親善総合病院　薬剤部　主任
佐藤　利之



横浜市泉区にある当院は急性期医療を担うとともに緩和ケア病棟を有しています。チーム医療も盛んに行われており、私は緩和ケアチームや認知症ケアチーム、術後疼痛管理チームなどに属しています。これらのチーム活動を通して、いろいろな意味での「緩和すること」の大切さに気付き、30代でセルフケアを学んでみようと思いました。

その第一歩として、アロマテラピーを勉強しようと思いました。道具から揃えようと思い、まずはアロマのお店に足を運んで、いくつか香りを試して良いと思った精油を購入しました。その時、お店にあったパンフレットから調べてアロマ検定というものがあることがわかりました。試しに受験をしてみようと思い、勉強を始めました。精油に関しては大学時代の天然物化学の知識を呼び起こしました。苦戦したのはアロマテラピーの歴史に関して初めて触れるので、覚えることがたくさんありました。なんとか２級と１級をパスして、アロマテラピーアドバイザーの資格を取りましたが、まだ趣味の範囲なので、その先の資格は未定です…。

そこからしばらくして、何かの資格の勉強をと考えていたところ、漢方薬検定の存在を知りました。以前から漢方薬にも興味があったので、早速テキストを取り寄せて、勉強をし、2026年３月に合格することができました。現在はそこから一歩先の漢方養生指導士のベーシックコースの講座を受けています。オンライン講座ですが、漢方の考え方や漢方の生理学、養生、薬膳などについて学ぶと興味深く、学生時代ぶりにマジメ（？）に講義を受けてノートづくりをしています。幅広い知識を勉強して10月の試験に備えています。それが良い刺激となって他の検定に手を出そうと画策しています。

歩く。整う。

社会福祉法人　聖隷福祉事業団　聖隷横浜病院
地域連携・患者支援センター　課長
伊藤　絵里香



最近、よく歩きます。

仕事では、頭が常にフル回転。考え、判断し、人と話し、また考える。さまざまな人とのやりとりの中で、気づけば一日中、脳を働かせているような感覚になります。

だからこそ、リセットする時間が大切なのだと、年齢を重ねるほど実感するようになりました。

私にとって、その時間が『歩く』ことです。

仕事帰りにお気に入りの景色を見るために少し遠回りをしたり、休日には目的もなく、なが一い散歩をしたり。海が見たくなれば、海を目指して歩きます。食事会や飲み会の帰りには、ほろ酔い気分で歩くこともしばしば。

歩いていると、季節の移ろいにも気づきます。春の緑の匂いや冷たさのある冬の匂い、木々の変化、空の色や雲のかたち。そんなちょっとしたことを感じながら歩いていると、いつの間にか頭の中でぐるぐるしていたことが、少しずつほどけていくようです。

最近は、サウナで整うという人が多いようです。私にとっての『整う』は何だろうと考えてみたら、どうやら『歩く』ことなのだと気づきました。

歩いて汗をかいて、頭を空っぽにして、心に少し余白ができる。私の場合、それが『整う』ということなのかもしれません。

私は秋田の自然豊かな田舎で育ちました。今では、秋田で過ごした時間よりも、横浜で暮らす時間の方が長くなりました。それでも、自然の中を歩くとどこか懐かしく、横浜の街を歩けば、やっぱりこの街が好きだと感じます。

大好きな横浜と、生まれ育った秋田。そんな二つの場所が、私を歩かせているのかもしれません。行き先を決めず、自分の心に素直に、気の向くままに歩きます。

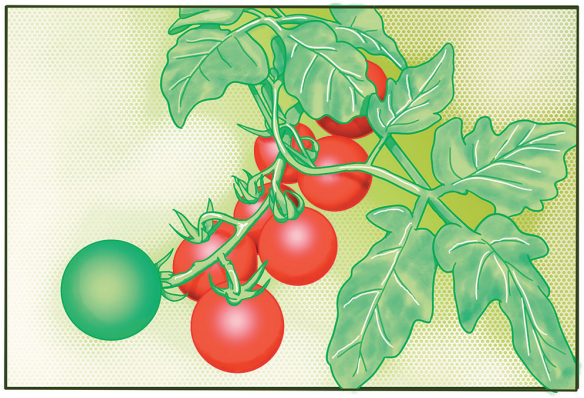
歩く。整う。

それは、忙しい毎日の中で、自分を自分に戻す、私の大切な時間です。

心象風景

「子育てトマト」

予定外に、トマトを二株育てることになった。
野菜を育てた経験はほとんど無かったが、とりあえずやってみるかと切り替える。
プランターにするか鉢にするか、大きさは？日当たりのいいところに置く？
できることなら上手く育てたいが、分からないことばかりで不安がつのる。
支柱を用意して成長を助ける。台風が来るので屋内に避難させる。
どんどん成長を見るのが楽しくなってきた。
せっかく支柱を用意したのにちがう方向へとどんどん
枝をのばす。矯正すべきか悩む
おりからの強風で枝が一本折れてしまった。
除去すべきか悩む
思い通りにいかない…
折れた枝の先に小さな実を発見した。
大きく、赤くなっていく。
鈴なりにみのるトマトの大軍を見ていると、支柱と違



う方向へ伸びた枝のことも、折れた枝のこともどうでもよくなり、ただ嬉しかった。
結果、わたしのトマトは形が変だが大量、皮が硬いけど味が濃いとなり、良い経験だったと思えた。
家族が一堂に会し、食卓に上ったトマトを食す。
親の勧めとは違う職業に就いた長男。持病持ちでも学校に通う次男。黙々と食べている。
覚悟もなく始まった子育て。
手放しに“ただ嬉しい”と思うにはまだ時間が欲しい。

（南部太郎）

おすすめ福利厚生

食品・商品廃棄ロスの削減に資する取り組みとして、CLOSED Martのサービス提携契約を締結しました。
クローズドマートは、会員企業・団体の従業員を対象に、さまざまな理由で一般市場への流通が困難な食品・商品を特別な価格で提供する社会貢献型職域限定ECサイトです。コンビニ商品や大手メーカー品を安価に購入でき、SDGsの取組みに気軽に参画できるものです。普段のお買い物や景品などにご活用ください。



ご利用方法：下記QRコードまたはURLから法人コードを入力してください。
CLOSED Martサイトへ　closedmart-members.com/

法人コードは医療協へお問合せください。
info@iryoukyou.or.jp（メールの件名にクローズドマート法人コード問合せ、内容に施設名とお名前をご記入のうえ送信してください。）

あとがき

私の母は、私とは正反対で頭の回転が速く人前に立てるタイプです。世界各国を飛び回りながら、様々な国の人々と交流を深めてきました。アゼルバイジャンでは、日本のNGOが建てた学校のある町にたまたま滞在したところ、日本人というだけで学校に招待され、挨拶をと頼まれると、まるで学校の創設者のように挨拶したという逸話もあります。そんな母のもとには海外の人々が代わる代わる滞在し、実家はいつも国際色豊かでした。今では心臓を患い、遠くへ行くことが難しくなった母ですが、先日、15年前に実家に滞在したコロンビア人夫妻が、ご家族とともに会いに来てくれました。楽しそうに話す母の姿を見て、私も嬉しくなりました。これからは、母が世界中の友人と再会できるよう、私も力になりたいと思います。その前に、英語の勉強をしなくては！　（松岡）

今年3月、我が家に7歳の犬「サニー」がやってきました。これまで劣悪な環境で過ごしてきたサニーを漢字一文字で表すなら「無」。最初はケージから出ず、ごはんを食べては一目散に戻る日々。初めての散歩では、地面に下ろした瞬間にフリーズしてしまいました。あれから半年。まだまだ慎重派ですが、気が向けばケージから出て家の中をうろうろ。散歩は大好きで、尻尾はクルクル回りっぱなし。そして、ごはんの時間には「喜びの舞」とキュンキュン声で大歓迎です。「無」だったサニーの毎日に、少しずつ「楽しい」が増えているようです。さて、次は何ができるようになるのかな？　（髙木）

福祉医療　第132号　令和8年10月31日
■発行 神奈川県医療福祉施設協同組合
■編集 福祉医療編集委員会
■編集責任者 吉田　勉
■印刷 (株)神奈川機関紙印刷所
■発行責任者 林 泰広
■電話 045-311-8739
横浜市神奈川区反町3丁目17−2